

聖俗を均す

対立を調和し、浅草六区を再興する

複合型文化施設の提案

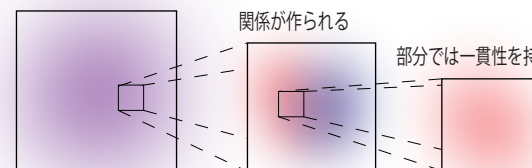


1 対立していること

全体で1つの機能となる

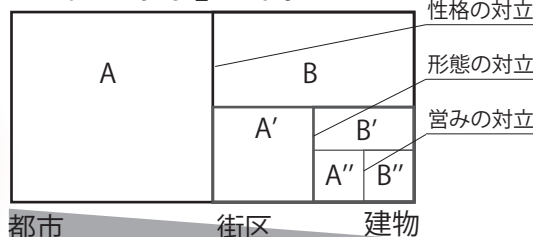
機能の1つ1つが対立し、
関係が作られる

部分では一貫性を持つ



対立を操ることで部分では一貫性を保ちつつ、全体では多様な目的を持った人々の混合から新たな営みを生んだり異なる営みが共存することはできないだろうか。

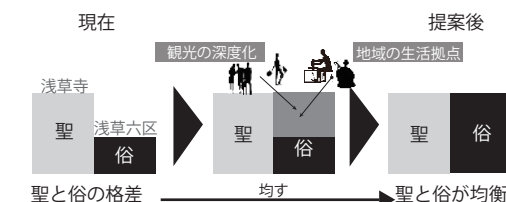
2 「対立都市」 浅草



浅草は浅草寺が持つ「聖」と浅草六区が持つ「俗」の対立する2つの性格を中心として、形態の対立、営みの対立から構成される対立都市である。

3 対立を均す

concept / 聖俗を均す＝浅草の聖と俗の対立を調和する



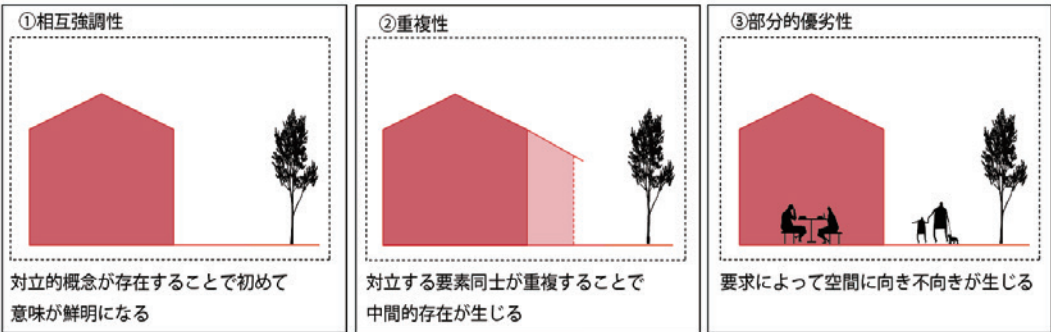
浅草六区を新たに地域住民の生活拠点と、観光の深度化を両立した複合文化施設を提案することで再興する。

4 浅草六区を再興する



あらゆる形態と営みが対立しつつ共存する新たな六区の象徴となる

1-1 対立の3つの特性



対立とは、二つの事柄が同等の地位で対をなして両極から向かい合う関係性のことである。対立項である「外」と「内」を例にした時、外と内は相互補完することで意味をもち、半屋外などの中間を形成する。また、活動によって我々は二者択一を行う。これらの3つの特性を応用した建築を創造し、「対立」に新たな価値を与える。

2-2 「対立都市」 浅草の課題



商業的に発展し続け、地域住民の生活空間としての側面が失われつつある「聖」浅草寺境内と、娯楽の多様化によって街から人が消失してしまった「俗」浅草六区の間に生じているギャップにより豊かな都市体験は失われてしまっている。また、オーバーツーリズムの影響で観光客と地域住民の間にも確執が生じている

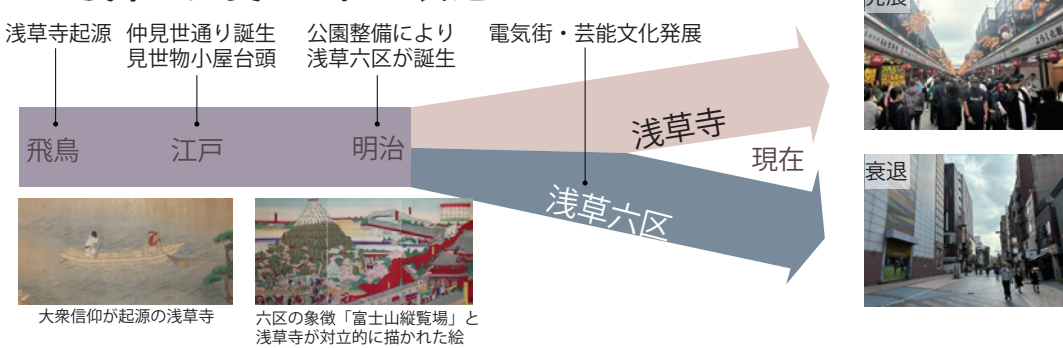
聖俗を均すことで価値の再発見が必要

2-4 聖の象徴「浅草寺」と対立する対象敷地



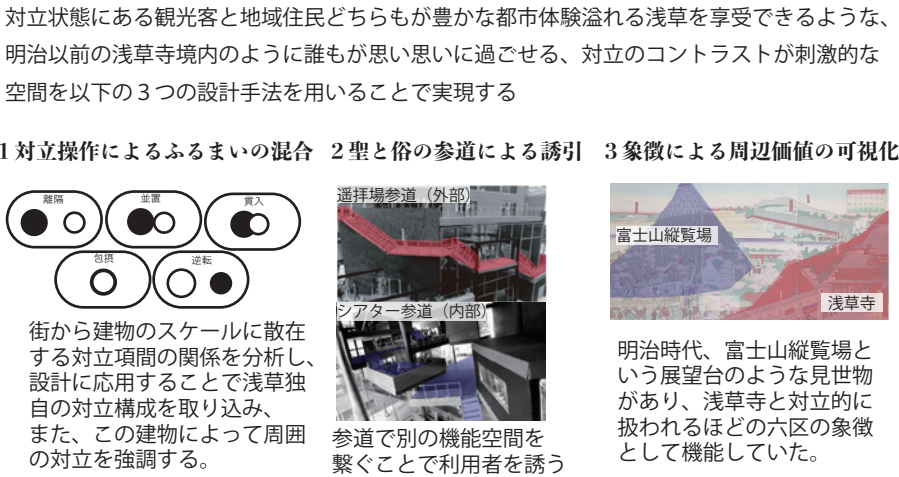
対象敷地は六区ブロードウェイのアイストップとなっており、仲見世通りのアイストップとなる浅草寺本堂と対立的である。対立する二項間は花やしき通りによって結ばれる。この場所に設計し、浅草寺と対立的に扱うことで今後の浅草を象徴する。

2-1 浅草の歴史・六区の衰退

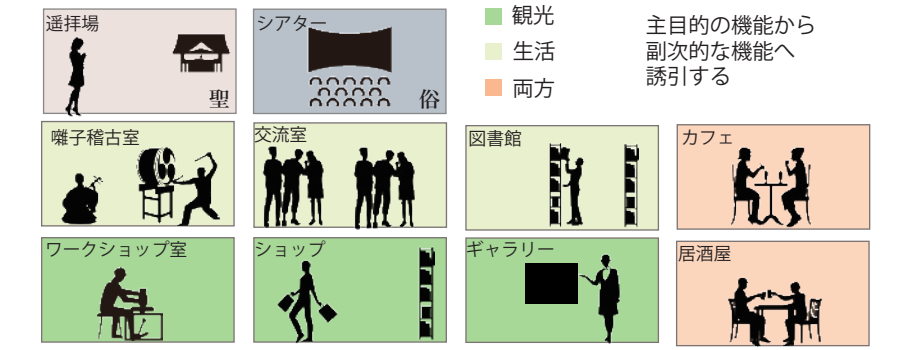


公園整備以前の浅草は、浅草寺境内に見世物小屋や水茶屋などが存在し、多彩な営みと形態が対立しつつも調和する刺激的な街だった。明治以降に浅草六区が誕生し、聖と俗の対立は隔絶されてしまった。

2-3 浅草六区を再興する文化複合施設の3つの手法

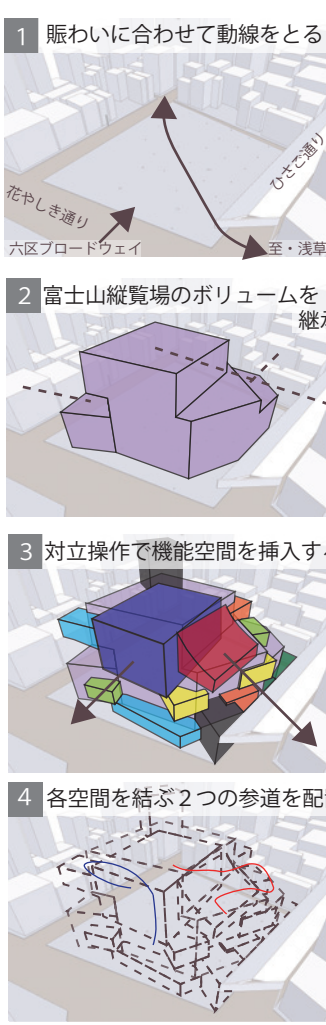


2-5 対立する機能空間



異なる目的を持って訪れる観光客と地域住民のための対立的な空間に、関係を持たせる設計を行う。遙拝場とシアターを中心とし、観光と生活にまつわる様々な機能を含んだ複合文化施設とする。特定の空間から別の空間へ、さらに別の空間へ誘引し、利用者は連続的に異なる空間を体験する。

2-6 設計プロセス



3-1 参道シーケンスによる誘引

遥拝場を終点とする聖の参道とシアターを終点とする俗の参道の2つを登っていく中で様々な機能空間がシーケンスを構成し、**主目的から他の空間へ利用者を誘う**

聖の参道

参道が交わる場

俗の参道

参道終点

外部参道と内部参道の結節点であり、賑わいの中心となる。児童室や貸スペース、図書館などとも繋がることで異なるふるまいが共存した空間となり、大きな開口から敷地裏に広がる住宅街を見渡せる。

浅草寺

遥拝場

図書室

交流室

ショップ

居酒屋

住民ギャラリー

ワークショップ室

六区ブロードウェイ

シアター

ホワイエ

貸しスペース

図書室

カフェ

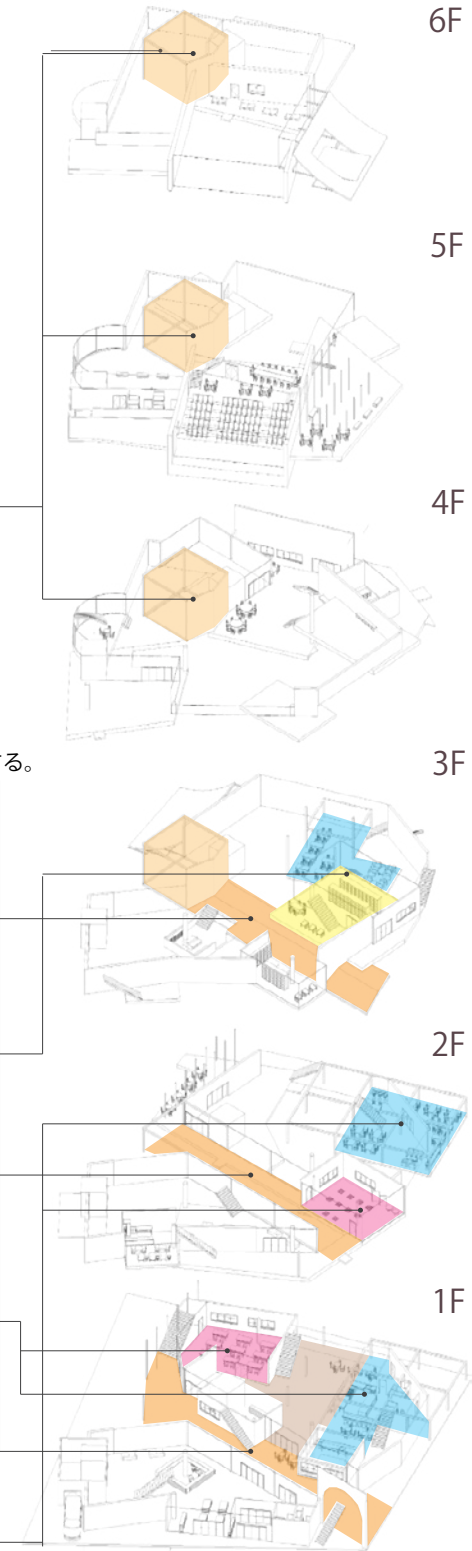
シアター受付

参道入口

3-2 5つの対立構成による空間操作

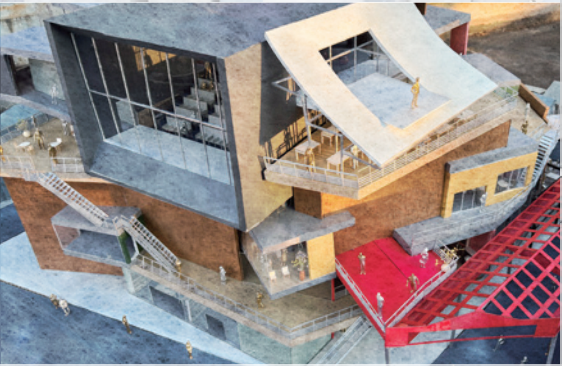
都市から建物のスケールまで横断し、浅草に存在する対立構造を分析・類型化した。その結果対立構成には二項間の距離によって空間の純粋性が変化し、伴って人々のふるまいも純粋なものから他の要素が混合したものまで、**5つの対立構成のなかでグラデーションに変化することがわかった**。この対立構成に基づいて設計を行うことで、**浅草の豊かな対立を内包する建築が生まれる**。

特性	5つの対立構成	街に散在する対立	操作した空間
低	① 意味の転化 逆転 		
	本来の空間の役割が失われ、別の使われ方が生じる。アーケードが垂直に逆転することで VOID となり、光や風を取り込む。また、断面的な包摂が生じる。	建物が解体され底だけが残る	アーケードの VOID 化
	② 空間の平均化 包摂 		
	空間がより大きな空間によってまとめられる。まとめられた空間は平均化し、選択性が強調される。また、余白にそれぞれの活動が滲み出し、並置が連続する。	アーケードが建物をまとめる	アーケードを引き込みまとめる
	③ 受動的な混合 貫入 		
	異空間同士が融合し、受動的（強制的）な活動の混合が生じる。各空間の純粋性が消失し、偶発的な営みやモノが混合し、独自性が生じる。	内部の活動が道路に侵食する	図書室と居酒屋
	④ 能動的な混合 並置 		
	直接移動でき、異空間同士で能動的な活動の混合が生じる。また、それぞれの空間は独立し、純粋性が保たれる。	面によって異なる様式の立面	居酒屋とワークショップ室
	⑤ 空間の自立 離隔 		
高	離れた場所から五感的に興味を誘引するが、直接移動できない	五重塔と花やしきの塔	囃子稽古室と居酒屋





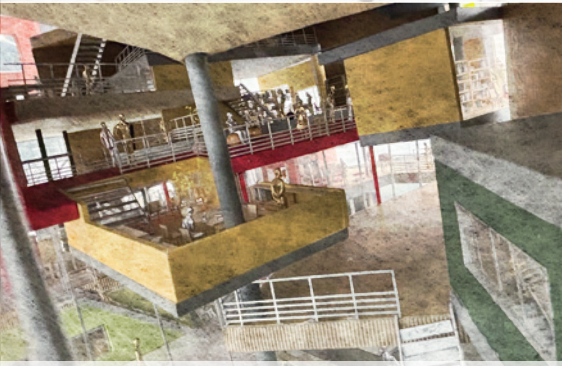
北側から見る



シアターと選拝場の対立関係

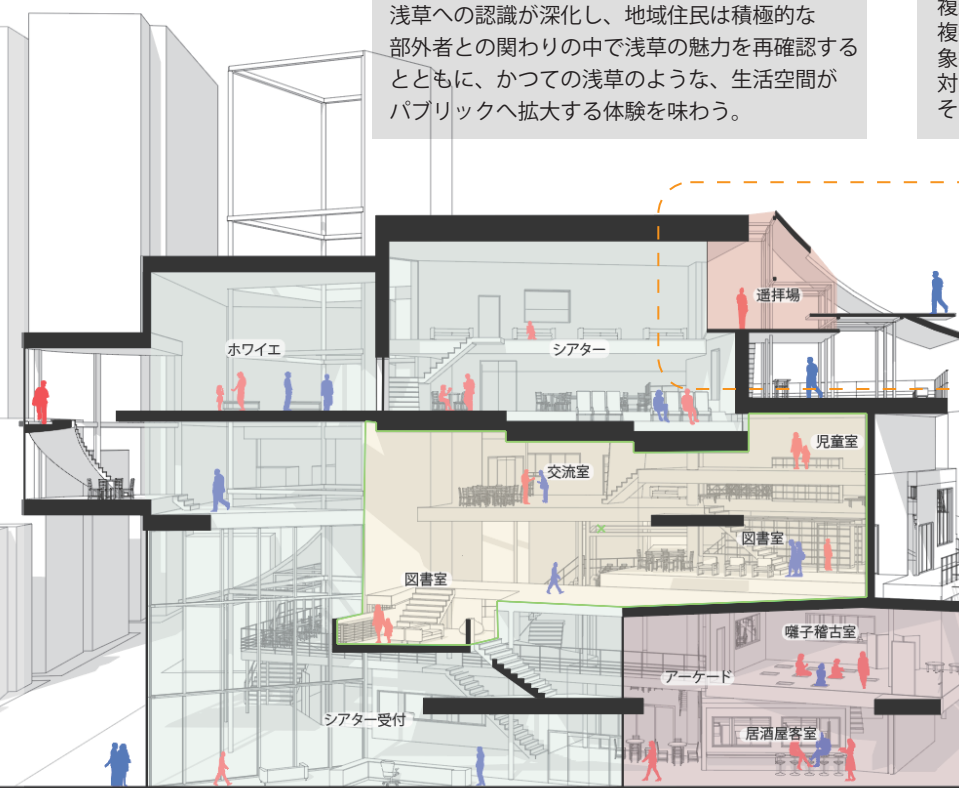
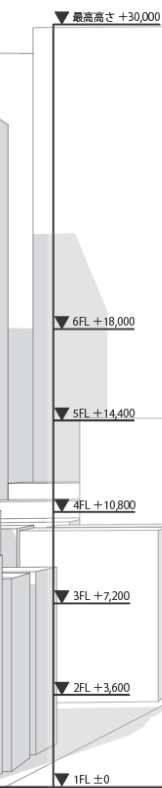


商住一体地域側に開かれるアーケード



機能同士が対立操作によって関係を形成する

A-A'断面図 1/300



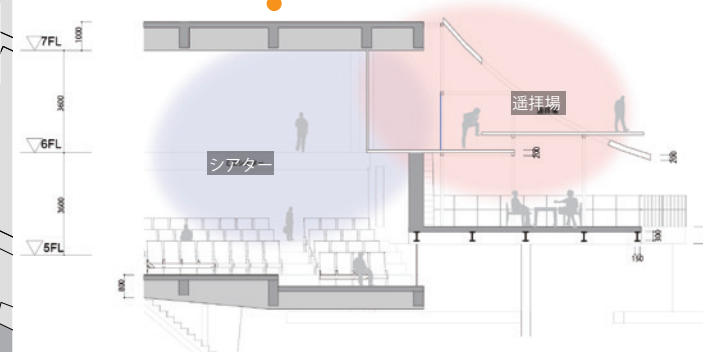
観光客は地域の生活拠点へ踏み入れることで浅草への認識が深化し、地域住民は積極的な部外者との関わりの中で浅草の魅力を再確認するとともに、かつての浅草のような、生活空間がパブリックへ拡大する体験を味わう。

無関係あるいは対極に位置する空間同士が同居することで複雑な関係を築く。それにより偶発的、同時多発的に複数のふるまいやコミュニティが形成され、六区の新たな象徴となる。この建物に表出する様々な対立関係は浅草を対立させたまま調和させる新たな視座をもたらし、六区、そして浅草全体に刺激的な都市体験を広げる。

配置図兼 1F 平面図 1/500



東側は浅草寺本堂から続く花やしき通り、アーケード商店街のひさご通りと面しており、北・西側は住商一体建築が密集している。



4 浅草の縮図

本来無関係であった空間同士が対立操作によって関係を持つことで特定の機能に訪れた観光客は、参道や対立操作で出来た空間によって本来の目的以外の空間に誘導され、地域住民の営みを五感的に体験し、同時多発的にふるまい、コミュニティを偶発させる。そして浅草六区の象徴として存在感を持ったこの建築は、部分では一貫性を持つ様々な機能が全体として均され、包容力のある空間を六区へ還元していく。